

地域産業活性化対策特別委員会会議録

1. 日 時 平成24年9月13日(木曜日)
午前 9時30分～午前11時20分 現地視察
午前11時42分～午前11時53分 机上審査
2. 場 所 委 員 会 室
3. 出席委員 西 岡 晃 委 員 長 坪 井 康 男 副 委 員 長
河 本 芳 久 委 員 山 中 佳 子 委 員
三 好 睦 子 委 員 高 木 法 生 委 員
馬屋原 眞 一 委 員 秋 枝 秀 稔 委 員
猶 野 智 和 委 員 秋 山 哲 朗 議 長
4. 欠席委員 な し
5. 出席した事務局職員
石 田 淳 司 議 会 事 務 局 長 岩 崎 敏 行 議 会 事 務 局 補 佐
岡 崎 基 代 議 会 事 務 局 主 査
6. 説明のため出席した者の職氏名
な し

午前11時45分開会

委員長（西岡 晃君） それではこれより地域産業活性化対策特別委員会の机上での審査を始めたいと思います。先程皆さん現地視察ご苦労様でございました。

それでは机上の審査でございますけれども、事前に配付しております資料をちょっと確認させて頂ければというふうに思います。これは地域の産業をどういうふうに活性化していくかということで、ある研究会のところが纏めた資料をもとに皆さんにご配付させて頂きました。その考え方とどういった進め方をしたらいいかという参考の資料になろうかというふうに思っておりますので、こういった方向性で進めて参りたいと思います。

まずは第1章ということで、定量目標の設定、まずどういった目標を設定するかということはこの委員会で設定していければというふうに思っております。

次に、産業活性化の考え方、地域の実情にあった産業の活性化をどのように構築していくかということの考え方を纏めていきたいというふうに思います。

最後にそれに対する問題点をどのように克服していくかということの考え方を纏めまして、執行部のほうにこの委員会として最終的には提示していければというふうに思っております。

先程見て視察に行って頂きました美祢農林開発株式会社の現状と問題点、課題等が視察によってある程度皆さんの中で理解出来て来たのかなというふうに思っております。

また次回につきましては美祢観光開発株式会社のほうにも、少し視察のほう行ってみたいというふうに思っております。

これについて、この進め方について、ご意見等ございましたらお願いしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか、この進め方で。河本委員。

委員（河本芳久君） この資料は大変よく出来て参考になる。そして実践、先進地の取り組みというか、そういったことも資料として載っておる。

そこで我々この委員会に与えられた活性化特別委員会を作った背景は、いわゆる過疎化する地域の活性化をどうして図っていくか。

それからもう一つは循環型のいわゆる産業創造というか、そういう面、多分たやすくいえば水力発電、いわゆる用水路を使った水力発電や太陽いろいろ風力とかいろいろそういうエネルギーに関する問題、きょうの竹の廃材あとどうするか、活用する方法とか、そういう意味でやはり二つのテーマがあったが、今、説明は定量目

標の設定をして、そして活性化に対する現状分析して提言を出そうじゃないかというけど、一つは循環型のことについてはどう取り組むかというのも、一応は出発の時にあったのでその辺を。

もう一つは、最初に定量目標の設定と、難しいこと言わんとおって、現状の分析をすれば雇用の現状はこういう状態になっちゃうと。所得がこうなっていると。例えば特産品としての今、美祢地域でどういう特産があるか。それがどれだけの所得をうんでおるか。農業所得がどうなっちゃうか。そして減反における麦や大豆はどうなっちゃうかとか。そうすると周南のほうから持ってこんでも、美祢産の大豆を使えやと。そういう形のいわゆる定量目標の設定の基礎となる現状をやっば分析せんと、次の目標がこれだけの農家の所得を少しでも上げる。雇用の場を増やす。だったら、どういうふうなこの方策を出せばいいかと。やはりそういう委員会として最後は提言し、政策を執行部に対して、議会としても政策をひとつ出していくということになれば、定量目標の設定というよりは現状の分析をすることが、出発になりゃせんかなという思いがある。その辺はどう考えたらいいかということ。

委員長（西岡 晃君） 私の考えでは、定量目標を設定するに当たっては、当然のことながら現状の分析をまずしないといけない。ここは避けて通れない。でないと目標の設定は出来ないということだと思います。今、言われるように、今後委員会ですら美祢市の現状の分析をしていきたいと。それから目標を設定してステップをふんでいくということだろうというふうに思っております。

また、循環型の今、言った産業、これは産業活性化の考え方ということで、実情にあった今の現状、美祢市の先程の現状分析をして、目標設定をして、地域の実情がわかった段階で、どういったものが循環型で産業として構築できるかというところの考え方を纏めて行きたいというような思いであります。

そういったステップを一つずつ踏んでいかなければ、多分うやむやな委員会になってしまいますので、一つずつステップを踏んでやって行ければというふうに思います。その他。はい。坪井委員。

副委員長（坪井康男君） 今、委員長さんおっしゃった通りだと思いますが、現状分析といっても余りにも漠然としたあれなんで、どういう視点で現状分析をするのか、そこが大事だろうと思うんです。

当然これは定量目標の設定というのは、一番最後に来る話ですから、まず大枠の現状分析、こういう視点でこういうことをやろうねと。例えばきょう見に行きました美祢農林開発の問題、それから美祢観光開発株式会社の問題、この二つ&循環型

経済ですか、その三つぐらいに入口を絞って分析して何か方向性が出ればそれでよしとするのか。その辺の現状分析に切り口とかねこの問題だと私は思います。

委員長（西岡 晃君） わかりました。ありがとうございます。

今言われるのもごもっともだと思います。切り口としての分析をどこを分析していくか、分析の仕方によっても目標の設定が違ってくるでしょうし、切り口によってもそれぞれ見方が変わってくると思いますので、是非、皆さんでやる委員会ですので、私一人でどういったことをしていこうかということじゃございませんので、どういったところを掘り下げて分析していくのかということをして行きたいと。それによったらこういうふうなやり方がいいんじゃないかということ、出来ましたら次回まで皆さんで考えて来て頂きたい。

今回は今言いましたように、もう一つ美祢市に第三セクターであります観光開発株式会社の現状を調査しに行ってみたいなという思いがありますので、それも踏まえて、皆さんにどういった切り口でこの今、目標の設定していけばいいか、産業活性化どうしていったらいいんだという切り口を考えて頂ければというふうに思います。是非次回までの宿題という形でお願いさせて頂ければというふうに思います。

事前配付した資料の確認についてその程度でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長（西岡 晃君） その他何かご意見等ございましたら、お願いしたいと思いますが。はい。坪井委員。

副委員長（坪井康男君） 資料編にいろいろ事例がありますけどね。さっき美祢農林開発で竹の子、山口県内でどこどこがやってるという話ありましたね。その中にインターネットでたまたま見ましたら、大島のこれが出てるんですよ。竹林整備で島に活気をというのがありますので、これも資料として一つ加えて頂けたらと思います。あとコピーあげます。

委員長（西岡 晃君） わかりました。またそれは委員の皆様へ配付したいというふうに思います。その他。はい、河本委員。

委員（河本芳久君） 2年間の中で、どのように調査研究していくかという予定表立てたほうがいいんじゃないかと。今すぐじゃなくて次回上がってくる、最終的には提言として纏めるぞと。これも今まで纏めるよとって、インパクトのある纏め方ではなくて、全く産業振興条例を作るだけで終わってしまった。最初の活性化の時は。

やはり同じ産業振興のために我々はこういったことをやったとか、こういったこ

とが具体的に実現出来たというのがないと、やはりせっかくの議会で論議しても空論に終わってしまう。そういうことのないように、ひとつお互い努力したらどうかとそういう思いです。

委員長（西岡 晃君） わかりました。そのスケジュールについては素案を私のほうで作らせて頂いて、また次回に議論して頂くという形でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

委員長（西岡 晃君） ほかに何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

委員長（西岡 晃君） ないようでしたら地域産業活性化対策特別委員会、この議会での特別委員会を閉めさせて頂きたいと思います。ご協力ありがとうございました。

午前 11 時 53 分閉会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成 24 年 9 月 13 日

地域産業活性化対策特別委員会

委員長

西岡 晃